

平成 30 年度計画の自己点検・評価（中間）の確認結果について

平成 31 年 1 月 9 日
大学評価専門委員会

「第 3 期中期目標期間における内部質保証の実現に向けた自己点検・評価に関する基本方針」に基づき、年度計画の実施状況を把握し、適切な次年度計画の策定に資するため、平成 30 年度計画の各実施主体（理事・関係委員会・事務局等）は年度途中（12 月 1 日現在）における自己点検・評価を行った。

これを踏まえ、大学評価専門委員会では、主に中期目標・中期計画の達成に向けた観点から、各実施主体が行った自己点検・評価の内容について確認を行った。

1. 全体的な状況について

今年度は、昨年度計画の自己点検・評価結果を踏まえて改正した、「第 3 期中期目標期間における内部質保証の実現に向けた年度計画の自己点検・評価に係る実施要領」の事項のうち、特に記載については、多くの年度計画で、課題（長所）の把握及び改善（伸長）に向けた取組を含め、十分かつ具体的な内容となっております、内部質保証の実現につながる自己点検・評価が実施されている。

しかしながら、一部の年度計画においては、次の点について留意していただきたい事項があった。

- ・年度計画に掲げている一部の事項に対し、自己点検・評価がなされていない
- ・数値の根拠が十分に付されていないため、客観的に「順調に進捗している」と判断し難い
- ・課題や長所の記載が無い、又は、不十分

これらの計画に対しては、下記の共通したコメントで対応をお願いしている。年度末の自己点検・評価に向けての確実な進捗はもちろんのことであるが、これらを踏まえ、引き続き、記載内容の工夫や、課題や長所を把握し改善や伸長に繋げることが必要である。

【共通コメント】

○記載内容について

「次年度計画によると平成 30 年度に〇〇したとのことですが、それに関する内容を平成 30 年度の実施状況にも記載してください。」

「「順調に進捗している」というフレーズを不適切に使用しているので対応が必要です。基準値からの増などを示さなくては順調かどうか判断がつかないことが、H30 年 4 月の分科会において委員の先生から指摘されました。このことを真摯に受け止め、ご対応をお願いいたします。」

○課題の記載がない場合

「年度評価を通じた内部質保証の仕組みが実質的に機能していることを示すために、中期計画の達成の観点も踏まえて、継続的に検証を行ってください。」

○長所の記載がない場合

「中期計画の達成の観点も踏まえて、長所であることを示せるような取組みがないか検証を行ってください。」

2. 自己点検・評価結果の次年度計画への反映について

今回の自己点検・評価（中間）で指摘されたコメントや、整理した課題・長所（改善すべき点や伸長すべき点）については、次年度計画の策定や、今後の取組に反映させることにより、引き続き内部質保証の実現を図ることが重要である。

また、来年度（2019年度）は4年目終了時評価における最終年度となるため、2019年度終了時点で、中期目標期間終了時の中期計画達成に至る確実な進捗と十分な成果が必要である。

特に、数値目標を掲げている計画について、既に目標を達成している場合は、現状の維持あるいは更なる伸長に努めていただきたい。一方で、未だ達成できていない場合は、原因と対応策を早急に検討し、目標達成に向けた取組を加速していただきたい。

以上